三条市租税教育推進協議会長賞

消費税というものの価値

三条市立第三中学校　三年　今井（いまい）　絢音（あやね）

税金についての私の最初のイメージは、「払わなければいけないお金」でした。なんとなくながら嫌なものという認識だったのです。社会の授業で学習した「重い税で人々が苦しんだ歴史」や、つい五年前の令和元年に消費税率が10％に引き上げられたことなど、ネガティブなことしか知っていなかったからです。

この前、学校で租税教室が行われました。税金がどういうもので、どう使われている、これからどうなっていくのかを教えていただきました。私に一番身近な消費税について詳しく学びました。なぜ消費することにも税がかけられなければいけないのか。なぜ消費税率が引き上げとなったのか。少子高齢化が関係してきているようです。今、定年退職後の高齢者が増え、まだ成人前のお金を稼ぎにくい若者世代が減っています。現役世代の人々が、この２つの世代を支えなければなりません。しかし、支えきることができません。だから、消費税は大事なもので、今後少子高齢化が進んでしまえば、10％からもっと引き上げられるというわけだそうです。社会の状況で消費税の価値は変わっていきます。

もう一つ驚いたことは、スウェーデンやデンマークなどは消費税は25％なんだそうです。そのかわり、学費や医療費が無償で幸福度が高い国です。ああ、そういうことなのかと思いました。消費税をたくさん払えばその分公共事業が安く、軽くなるわけです。日本がこの姿になるかはわかりませんが、私はこういう形は素敵だなと考えました。

この話と一つの映像をみて、税がいかに大切なものかがわかりました。今回よく考えたのは消費税についてですが、税の種類は100種類ほどあると聞きました。いろんな税について、そして海外の様々国でどのような政策が取られているのか調べてみようと思いました。たくさんの公共事業、警察、消防、救急などに使われていて、いつでも私達の生活を支えています。税について考える場をもらい、自分たちのよりよい生活の実現のためにもっと考えていきたいです。